



2012年3月期決算 プレゼンテーション資料

2012年4月
大阪ガス株式会社

I. 12.3期決算と13.3期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

12.3期決算のポイント

■ 概況

連結売上高	LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格の上昇や、電力事業売上の増加などにより、 前年比9.1%増収の1兆2,947億円。
連結営業利益	電力事業利益が増加したものの、LNG価格の上昇に伴う原材料費の増加により、ガス粗利益が減少したことなどから、 前年比12.8%減益の772億円。 時期ずれ差損は307億円発生 (前年の時期ずれ差損は85億円)。
■ ガス販売量	
家庭用	ほぼ 前年並みの2,271百万m³。
商・公・医療用	節電影響と見られる空調設備の稼働減少などにより、 前年比3.0%減少の1,575百万m³。
工業用	新規需要開発やお客さま設備の稼働増加などにより、 前年比5.2%増加の4,355百万m³。
■ その他	
新規事業拡大投資	カナダ・シェールガス開発プロジェクト、豪州イクシスLNGプロジェクト、LNG船などへの投資を意思決定。投資実行額は計642億円。

12.3期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 12.3期	B. 11.3期	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,045	7,012	+33	+0.5%
	新設工事件数(千件)	81	79	+2	+2.0%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.6	32.7	-0.1	-0.4%
	家庭用	2,271	2,275	-4	-0.2%
	商・公・医療用	1,575	1,624	-49	-3.0%
	工業用	4,355	4,141	+214	+5.2%
	業務用計	5,930	5,765	+165	+2.9%
	他ガス事業者向け	480	488	-7	-1.5%
	(うち大口供給)	(5,062)	(4,874)	(+188)	(+3.9%)
ガス販売量合計(百万m ³)		8,681	8,528	+154	+1.8%
連結ガス販売量		8,711	8,560	+152	+1.8%

12.3期実績 I

連結:億円	A. 12.3期	B. 11.3期	A-B	A-B/B (%)	()内は連単倍率 備考
売上高	(1.25) 12,947	(1.29) 11,871	+1,076	+9.1%	ガス販売価格の上昇、 電力事業売上の増加など
営業利益	(1.96) 772	(1.68) 885	-113	-12.8%	ガス粗利益の減少など
経常利益	(1.84) 756	(1.49) 823	-66	-8.1%	
当期純利益	(1.76) 452	(1.33) 459	-7	-1.7%	
SVA	119	132	-12	-9.4%	
連結ガス販売量	百万m ³	8,711	8,560	+152	
時期ずれ差損益	億円	-307	-85	-222	
為替レート	円/\$	79.1	85.7	-6.7	
原油価格	\$/bbl	114.2	84.1	+30.1	
連結子会社数		133	131	+2	

12.3期原油価格実績は、3月速報値までの平均。SVA(Shareholders' value added)=NOPAT-投下資本×WACC。Design Your Energy 夢ある明日を

12.3期実績 II

連結:億円	A. 12.3末	B. 11.3末	A-B	備考
総資産	14,757	14,372	+384	流動資産の増加など
自己資本	6,845	6,649	+196	
有利子負債	5,413	5,324	+88	社債の発行など
在籍人員	19,818	19,684	+134	
自己資本比率	46.4%	46.3%	+0.1	
D/E比率	0.79	0.80	-0.01	
	A. 12.3期	B. 11.3期	A-B	備考
設備投資	871	696	+175	姫路岡山ライン建設、LNG船建造など
減価償却費	936	975	-39	泉北天然ガス発電所減価償却費の減少
フリーキャッシュフロー	790	727	+62	
ROA	3.1%	3.1%	-0.0	
ROE	6.7%	6.9%	-0.2	
EPS (円/株)	21.7	21.6	+0.1	
BPS (円/株)	328.8	319.3	+9.4	

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設定投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

13.3期経営方針

■ 活動指針

「Change & Challenge」

- 東日本大震災以降の変化に対応し、変革に挑戦する。

■ 重点課題

(1) **全てのお客さまに、より進んだ安心・安全を**

- 原料の安定的な調達
- 製造・供給設備の増強・多重化と、災害対策の推進

(2) **天然ガス・分散型エネルギーシステムで新たな社会を**

- コージェネレーションシステム、スマートハウス、ガス冷暖房の普及拡大

(3) **新たなビジネスモデル、更なる投資の拡大を**

- 電力事業、国内広域卸供給
- 海外エネルギーバリューチェーン事業
- 関係会社(不動産、材料ソリューション、情報、LPG・産業ガス、ライフサービス)

(4) **社会・地域とより強固な絆を**

13.3期見通しのポイント

■ 概況

連結売上高	料金改定の影響はあるものの、LNG価格の上昇に伴う、ガス販売価格の上昇や、LNG販売の増加を織り込み、 前年比5.3%増収の1兆3,630億円 を見込む。
連結営業利益	時期ずれ差損の縮小に伴い、ガス粗利益が増加するほか、残存簿価5%到達資産の5年均等償却の終了などにより、減価償却費が減少することなどから、 前年比16.5%増益の900億円 を見込む。 時期ずれ差損の想定は31億円。
■ ガス販売量	
家庭用	平年気温を前提とし、 前年比1.7%減少の2,232百万m³ を見込む。
商・公・医療用	お客様の省エネルギー推進の影響を織り込み、 前年比4.0%減少の1,512百万m³ を見込む。
工業用	新規需要開発やお客様設備の稼働増加を織り込み、 前年比1.1%増加の4,404百万m³ を見込む。
■ その他	
新規事業拡大投資	海外エネルギーバリューチェーン事業分野での投資を中心に、 1,200億円の投資 を計画。

13.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 13.3期 見通し	B. 12.3期 実績	A-B	A-B/B(%)
個 別	お客さま数(千件)	7,078	7,045	+32	+0.5%
	新設工事件数(千件)	81	81	-0	-0.6%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	32.0	32.6	-0.6	-1.9%
	家庭用	2,232	2,271	-39	-1.7%
	商・公・医療用	1,512	1,575	-62	-4.0%
	工業用	4,404	4,355	+49	+1.1%
	業務用計	5,916	5,930	-14	-0.2%
	他ガス事業者向け	474	480	-7	-1.4%
	(うち大口供給)	(5,083)	(5,062)	(+21)	(+0.4%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,621	8,681	-60	-0.7%
連結ガス販売量	8,652	8,711	-59	-0.7%	

13.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 13.3期 見通し	B. 12.3期 実績	A-B	A-B/B (%)
売上高	(1.25) 13,630	(1.25) 12,947	+682	+5.3%
営業利益	(1.57) 900	(1.96) 772	+127	+16.5%
経常利益	(1.43) 900	(1.84) 756	+143	+18.9%
当期純利益	(1.31) 570	(1.76) 452	+117	+26.1%
SVA	238	119	+118	+99.3%
連結ガス販売量	百万m ³ 8,652	8,711	-59	
時期ずれ差損益	億円 -31	-307	+276	
為替レート	円/\$ 80	79.1	+0.9	
原油価格	\$/bbl 115	114.2	+0.8	

SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

Design Your Energy 夢ある明日を

OSAKA GAS

13.3期見通し II

連結:億円	A. 13.3末見通し	B. 12.3末実績	A-B
総資産	15,715	14,757	+957
自己資本	7,213	6,845	+367
有利子負債	5,840	5,413	+426
在籍人員	19,992	19,818	+174
自己資本比率	45.9%	46.4%	-0.5
D/E比率	0.80	0.79	+0.01

	A. 13.3期見通し	B. 12.3期実績	A-B
設備投資	1,011	871	+139
減価償却費	848	936	-87
フリーキャッシュフロー	791	790	+0
ROA	3.7%	3.1%	+0.6
ROE	8.1%	6.7%	+1.4
EPS (円/株)	27.4	21.7	+5.6
BPS (円/株)	346.2	328.8	+17.4

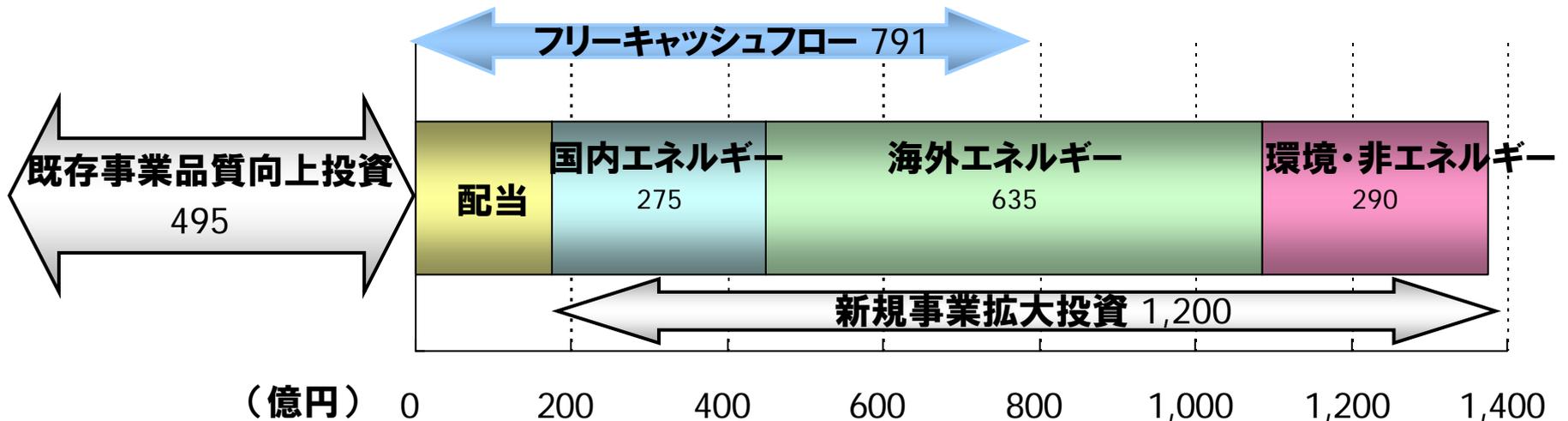
FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。Design Your Energy 夢ある明日を

13.3期連結フリーキャッシュフローの使途

- 13.3期のFCFは、前期並みの791億円となる見通し。
- 新規事業拡大投資は、1,200億円を計画。

国内エネルギーサービス事業	基幹導管建設など
海外エネルギーバリューチェーン事業	意思決定済案件への支出 新規案件の発掘・取得
環境・非エネルギー事業	収益不動産取得、新規案件の発掘・取得

- 12.3期に引き続いて、年間配当8円/株を目指す。



フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュフロー－通常設備投資(既存事業品質向上投資)による支出。
投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の計画値とは異なる。

II. 参考資料

12.3期売上高実績の前年差異

11.3期 → 12.3期 (差異)

11,871億円 12,947億円 (+1,076億円)

個別: +1,146億円

ガス売上高 +947億円
・原料費調整影響 +815億円
・数量差等 +131億円

その他売上高 +199億円
・電力売上 +131億円
・LNG販売売上 +39億円
・器具販売売上 +10億円

連結-個別: -70億円

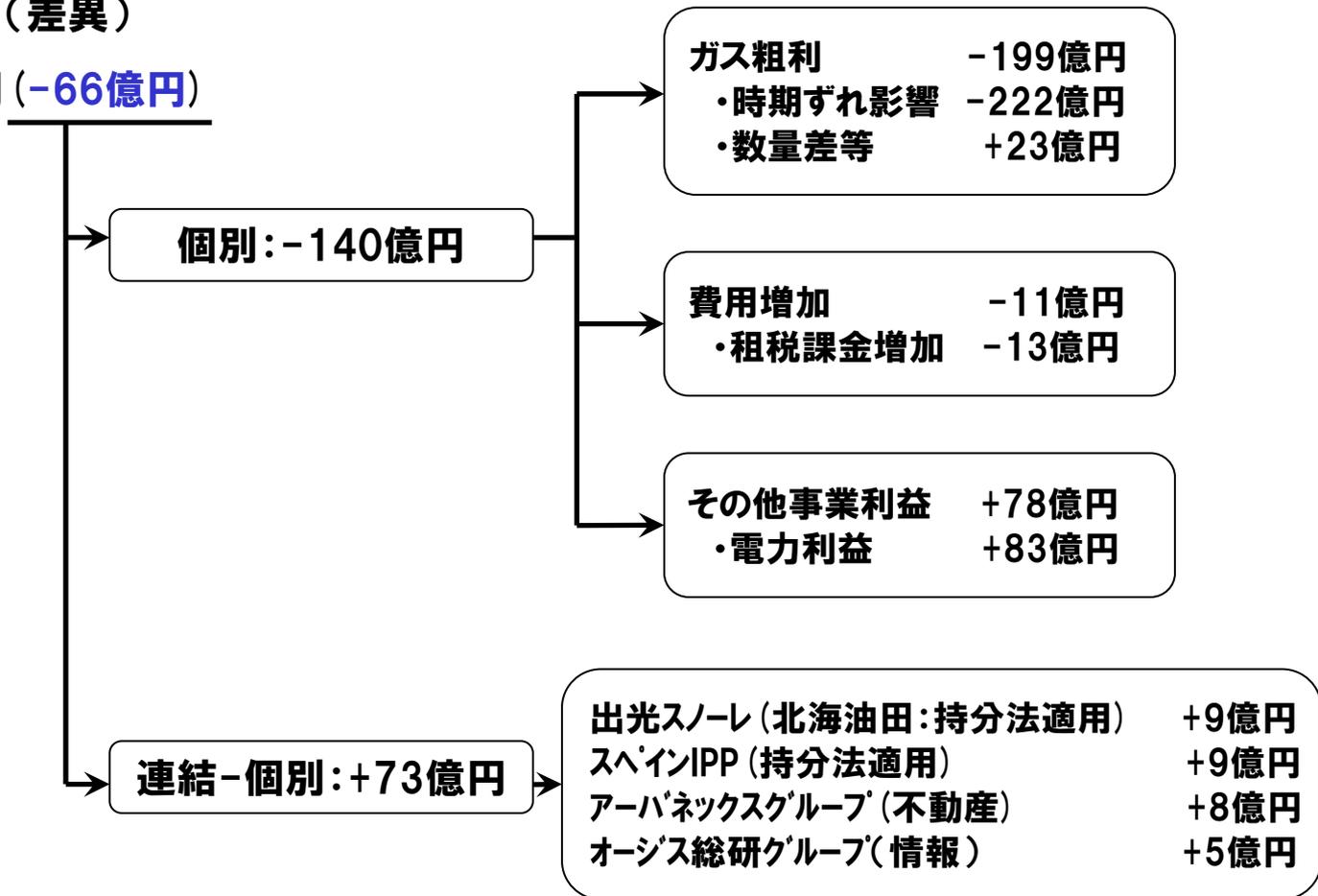
大阪ガスマゾン(不動産) -70億円

12.3期経常利益実績の前年差異

11.3期 → 12.3期 (差異)

823億円 756億円 (-66億円)

+-の符号は、利益影響を表す。



12.3期セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	12.3期	11.3期	12.3期	11.3期	
ガス	9,765	8,798	209	419	売上:ガス販売単価増 利益:時期ずれ差損の拡大
LPG・電力・ その他エネルギー	1,980	1,747	324	256	売上:電力売上増など 利益:電力利益増など <u>電力事業利益</u> (*):11.3期 123億円 12.3期206億円
海外エネルギー	111	111	86	49	持分法投資利益増 (北海油田、スペインIPPなど)
環境・ 非エネルギー	1,845	1,854	185	156	売上:不動産売上減など 利益:不動産利益増など
消去又は全社	-755	-640	22	25	
連結	12,947	11,871	829	907	

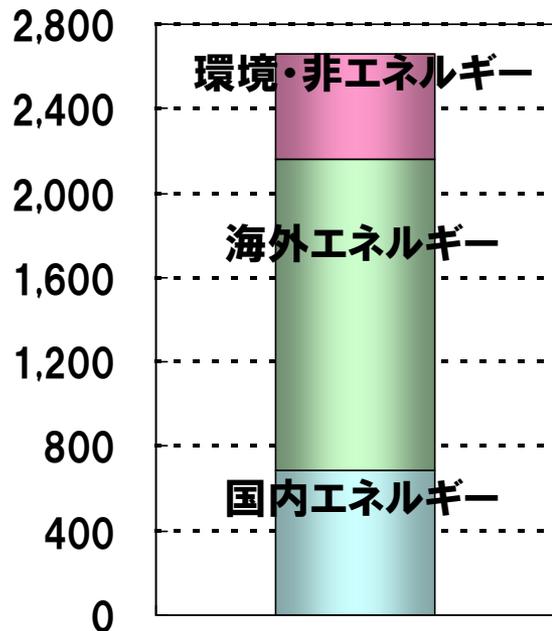
(*) セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

(*) 電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示。

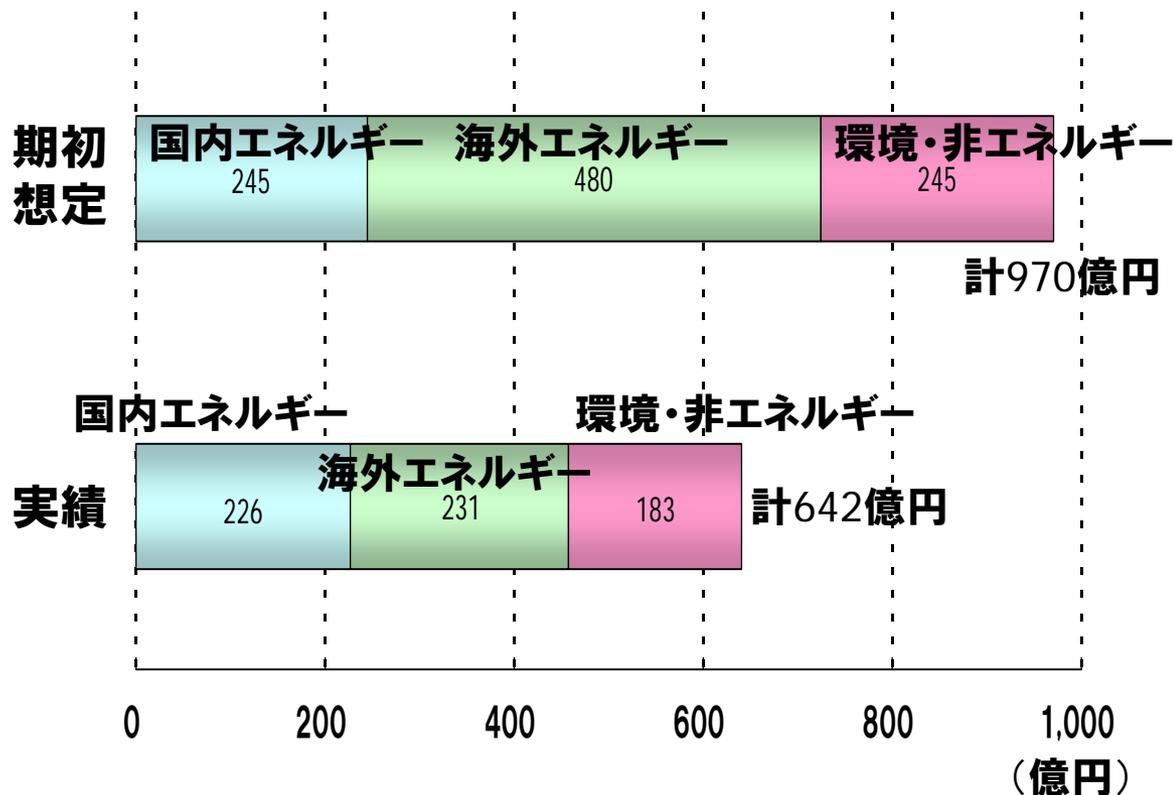
12.3期新規事業拡大投資実績

- 10.3期からの累計意思決定済金額は**2,660億円**(10.3期～14.3期計画額の67%)。
- 12.3期の投資実施額は642億円。

10.3期からの
(億円) 累計意思決定済金額



12.3期の新規事業拡大投資



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

13.3期売上高見通しの前年差異

12.3期実績→13.3期見通し(差異)

12,947億円 13,630億円 (+682億円)

個別:+602億円

ガス売上高 +408億円
・原料費調整影響 +495億円
・数量差等 -86億円

その他売上高 +194億円
・附帯事業売上 +174億円
(LNG販売等)
・営雑売上 +20億円
(器具販売等)

連結-個別:+79億円

クリエイティブテクノソリューション +24億円
リキットガスグループ(LPG) +24億円

13.3期経常利益見通しの前年差異

+-の符号は、利益影響を表す。

12.3期実績 → 13.3期見通し（差異）

756億円

900億円 (+143億円)

個別:+218億円

ガス粗利 +143億円
・時期ずれ影響 +276億円
・数量差等 -132億円

費用減少 +32億円
・減価償却費減少 +72億円
・諸経費増加 -27億円

連結-個別:-75億円

国内IPP -12億円
大阪ガスケミカル -9億円
アーパネックス(不動産) -8億円
出光スノーレ(北海油田:持分法適用) -5億円

13.3期セグメント別見通し

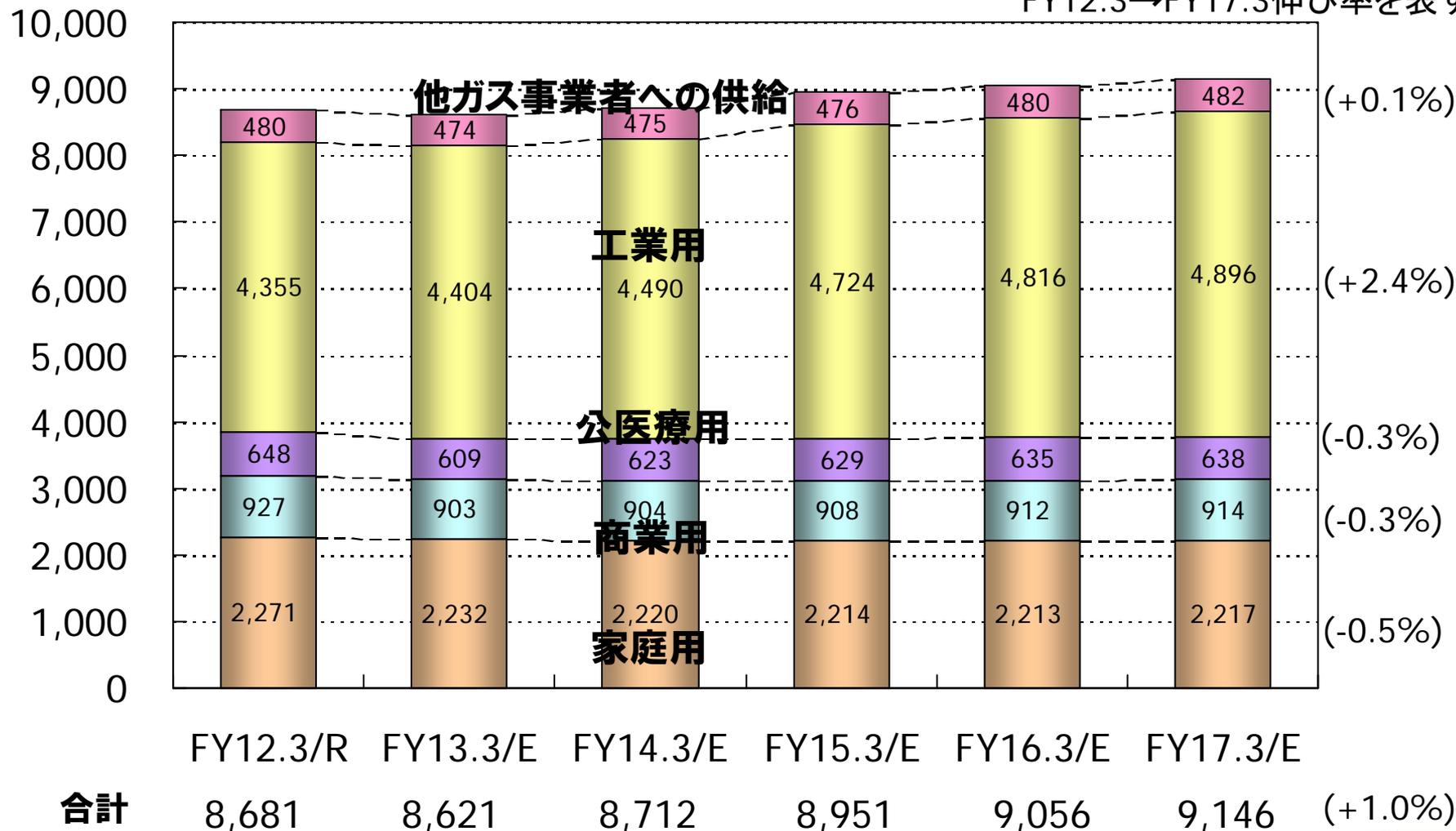
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	13.3期 見通し	12.3期 実績	13.3期 見通し	12.3期 実績	
ガス	10,160	9,765	375	209	売上:ガス販売単価増 利益:時期ずれ差損の縮小
LPG・電力・ その他エネルギー	2,285	1,980	335	324	売上:LNG販売増、LPG販売増など 利益:LNG販売利益増など
海外エネルギー	110	111	55	86	持分法投資利益減 (北海油田、スペインIPPなど)
環境・ 非エネルギー	1,700	1,845	155	185	売上:不動産売上減など 利益:材料事業利益減など
消去又は全社	-625	-755	15	22	
連結	13,630	12,947	935	829	

(*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資利益

個別ガス販売量の中期見通し

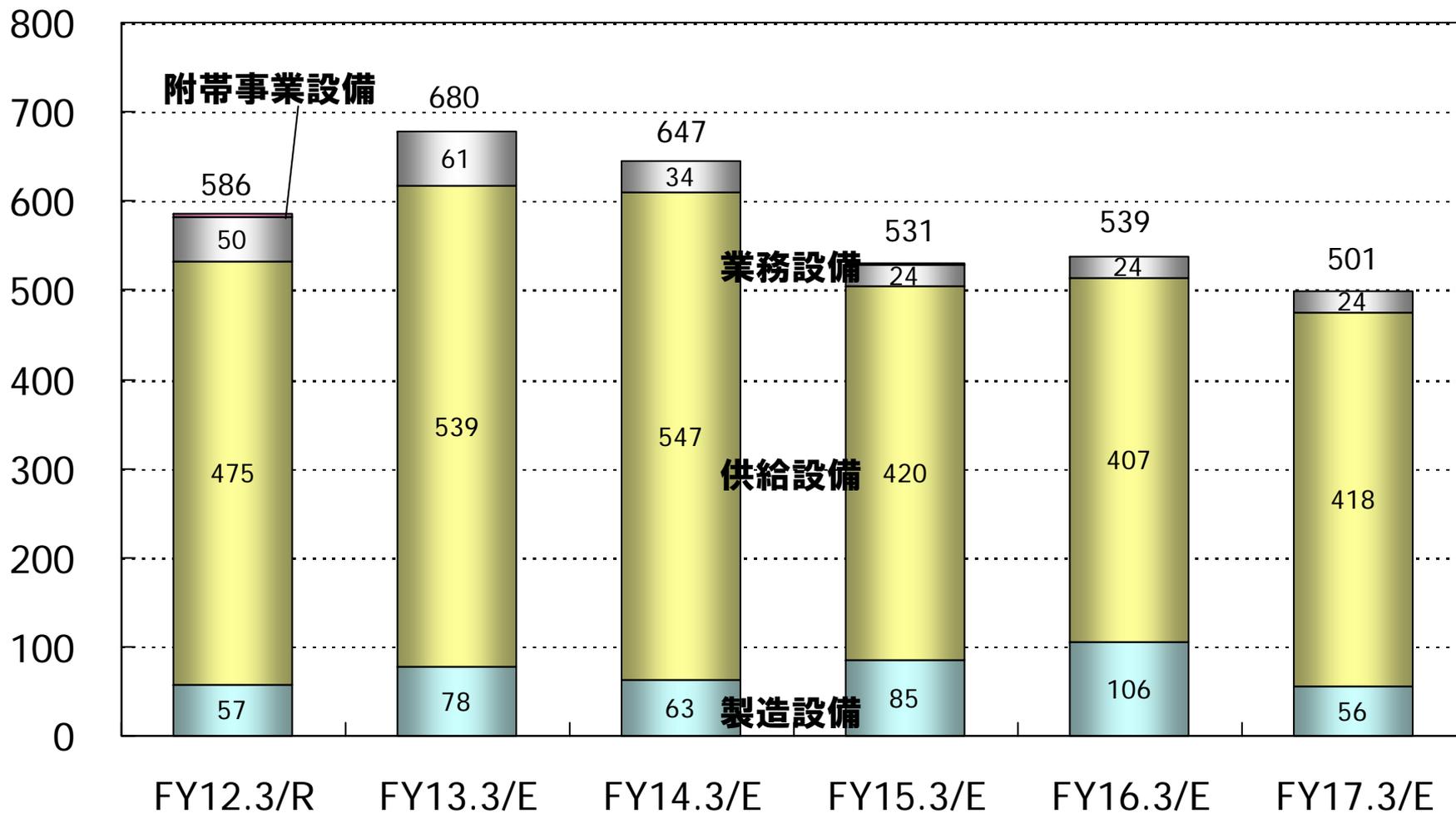
(45MJ, 百万m³)

グラフ右欄外の()内は、
FY12.3→FY17.3伸び率を表す



個別設備投資の中期見通し

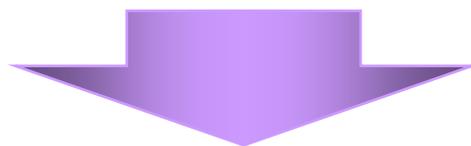
連結：億円



家庭用ガス販売

12.3期実績

	対前期	備考
調定件数	+0.2%	
気温影響	+0.1%	年間平均気温16.9度(前期17.0度)
その他	-0.5%	
合計	-0.2%	



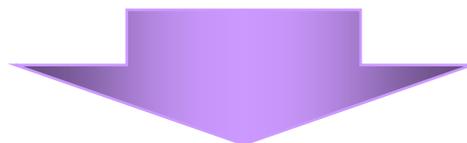
13.3期見通し

- 平年気温を前提とすることにより、気温が前年より高めに推移すると想定、対前期比-1.7%、39百万m³減の2,232百万m³を見込む。

商・公・医療用ガス販売

12.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+3.0%	公用物件や医療用物件の新規稼働
気温日数影響	-0.8%	前年夏場の猛暑の反動に伴う冷房需要の減少
その他	-5.2%	お客さまの省エネルギー推進及び 節電影響と見られる空調設備の稼働減少
合計	-3.0%	



13.3期見通し

- 平年気温を前提として、お客さまの省エネルギー推進の影響などを織り込み、対前期比-4.0%、62百万m³減の1,512百万m³を見込む。

工業用ガス販売

12.3期実績

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	新規物件の稼動開始
稼動増減等	+3.3%	お客さま設備の稼動増加など
合計	+5.2%	

主な業種別実績

(45MJ, 百万m³)

	販売量	販売量 構成比	対前期比
機械	374	8.6%	100.3%
金属	1,088	25.0%	106.0%
ガラス	337	7.7%	107.3%
化学	1,137	26.1%	98.9%
食品	517	11.9%	102.3%

13.3期見通し

- 油燃料を中心とした他燃料からの天然ガス転換を継続し、新規需要開発を進めるとともに、お客さま設備の稼動増加により、対前期比+1.1%、49百万m³増の4,404百万m³を見込む。

12.3期月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
家庭用	101.5	96.2	100.7	94.7	99.4	116.9	106.9	92.5	94.8	99.3	98.1	106.1	99.8	
商・公・ 医療用	102.4	94.8	103.7	97.4	91.7	90.4	92.7	90.7	97.7	99.5	98.9	108.3	97.0	
工業用	103.3	107.5	102.5	102.6	106.4	102.1	107.1	102.1	100.9	108.3	111.4	107.7	105.2	
業 種 別	機械	87.9	95.7	99.3	95.6	99.0	96.9	94.0	86.6	99.8	101.0	121.8	123.2	100.3
	金属	104.6	106.4	100.6	104.0	111.4	105.0	112.5	108.7	105.8	105.4	111.0	97.5	106.0
	ガラス	114.3	115.8	105.9	110.0	109.7	114.7	114.9	101.9	105.3	100.1	101.1	96.8	107.3
	化学	101.6	110.9	98.5	96.2	98.1	94.6	100.6	99.5	87.2	102.0	100.2	99.0	98.9
	食品	101.8	106.0	105.7	100.3	100.6	101.9	101.9	101.2	99.5	102.1	107.3	100.1	102.3
卸	101.0	108.3	100.8	94.0	102.5	97.6	105.6	86.8	92.6	99.8	102.3	93.1	98.5	
計	102.4	102.1	102.2	99.6	101.1	100.1	103.6	96.8	98.1	102.9	104.0	106.5	101.8	

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクするために、原油価格1\$/bblの変化に対して、今年度の粗利益は11億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格は米ドル・円の為替レートにリンクするために、為替レート1円/\$の変化に対して、今年度の粗利益は14億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。